

聖書日課 『からし種』 2021.5.30-6.6

<p>5月30日 (日)  エレミヤ 24章</p>	<p>「カルデア人の国へ送ったユダの捕囚の民を、わたしはこの 良いいちじくのように見なして、恵みを与えよう」(5節)。捕囚 に連れていかれた民を見捨てることなく、主が目を留め て恵みを与えてくださることを聖書は約束してくださ る。主の憐みは、どこに住んでいるのかでわけられること がない。主の祝福が注がれる週をいただきたい。</p>
<p>31日 (月)  エレミヤ 25章</p>	<p>「その日には、主に刺し貫かれた者が地の果てから地の果 てまで、嘆くこともなく横たわる。集められることも葬られるこ ともなく、地の面にまき散らされて肥やしとなる」(33節)。主 の裁きの言葉は、エレミヤを通して、主の民と呼ばれるイスラ エルにも、また今の私たちにも語られている。主の救いの声を 聖書から聞いて歩みたい。</p>
<p>6月1日 (火)  エレミヤ 26章</p>	<p>「主の神殿の庭に立って語れ。ユダの町々から礼拝のため に主の神殿に来るすべての者に向かって語るように、わたし が命じるこれらの言葉をすべて語れ。ひと言も減らしてはな らない」(2節)。主の言葉はどれも大切。聖書日課に合わせて 聖書を読むと、聖書の最初から最後までいただくことができ る。共に大井教会に与えられる日々の御言葉に耳を傾けて。</p>
<p>2日 (水)  エレミヤ 27章</p>	<p>『わたしは…すべて語った。「首を差し出して、バビロンの王 の轡を負い、彼とその民に仕えよ。そうすれば命を保つこと ができる。どうして、あなたもあなたの民も、剣、飢饉、疫病 などで死んでよいであろうか』(12-13節)。主は自分から 戦争に負けよと語る。その意図は捕虜になって、異教の地に 行っても生きようというメッセージ。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2021.5.30-6.6

<p><b>3日</b> <b>(木)</b></p> <p>エレミヤ 28章</p>	<p>「アーメン、どうか主がそのとおりにしてくださるように。どうか主があなたの預言の言葉を実現し、主の神殿の祭具と捕囚の民すべてをバビロンからこの場所に戻してくださるように」(6節)。イスラエルの民が捕囚となったとしても主の時がくることを確信していたエレミヤ。教会に集まらない今、主の時を待ち望む希望をもって歩みたい。</p>
<p><b>4日</b> <b>(金)</b></p> <p>エレミヤ 29章</p>	<p>「わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を帰らせる。わたしはあなたたちを…呼び集め、…元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。」(13-14節)。主の計画は、散らされた民を元の場所へと持ち運んでくださる将来と希望を与えてくださるもの。</p>
<p><b>5日</b> <b>(土)</b></p> <p>エレミヤ 30章</p>	<p>「見よ、わたしの民、イスラエルとユダの繁栄を回復する日が来る、と主は言われる。主は言われる。わたしは、彼らを先祖に与えた国土に連れ戻し、これを所有させる」(3節)。エレミヤを通して語られる帰還の希望は、私たちにもつながる希望。本来のあるべき場所へと主が導いてくださる。その主の時を待ち望みたい。</p>
<p><b>6日</b> <b>(日)</b></p> <p>エレミヤ 31章</p>	<p>「遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し／変わることなく慈しみを注ぐ。おとめイスラエルよ／再び、わたしはあなたを固く建てる」(3-4節)。バビロンという遠い異国に捕囚とされても、主はイスラエルを見捨てない。彼らの大きな挫折と苦難は、主の変わることのない慈しみを深く味わう機会となり、新しい契約の始まりとなる。</p>